

## 令和3年度岡崎市放課後児童クラブ支援員研修レポート

【日時】 2021年(11)月(8)日(月)10時~11時30分

【会場】 岡崎市図書館交流プラザ・りぶら

【内容】 何らかの配慮・支援を必要とする「子どもたち」と「対応」

【講師】 武田正道さん(こども発達相談センター)

【クラブ】( たけのこクラブ )

【名前】( 米本美紀 )

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

研修当日に配布された資料の冒頭に「放課後児童クラブ担当者さんへの感謝」と記載されていました。そういった文面が冒頭から記載されていた事が初めてだったので、嬉しく思いました。

コロナ禍で子ども達の生活が一変しました。本来なら当たり前に行っていた事が制限されています。「〇〇してはならない事が増えた」事です。

学校生活でもトイレから戻っても自分の机につかなければならない。

給食も黙食で食べないといけない。など、たくさんの「してはいけない事」が増え、ストレスを抱え学童に帰宅してきます。学童に帰宅しても「しなくてはならない事」を毎日言い続けなくてはなりません。講師の方の話しを聞きながら自分は口うるさく言い過ぎてなかったかな?と、ストレスを抱ながら帰宅してきた子ども達への言葉の配慮はできていたのか?と、思い返しました。

子どもの理解と対応については、子どもの困っていることが分からなければ対応法はないと仰っていました。想定することが前提だとお話しがありました。

子どもの気になる行動一つ一つに理由があるとお話しをされていて、ただ困るだけではなく大人が「子どものなぜ?」を考え、共感し理解をしなければいけないと改めて感じました。

よく子どもに「それ、ダメ!」と事が起きてから注意することもあります。事前にダメな事は子ども達に話しておく事。してしまったら、なぜ、してしまったのか?と一緒に考える時間をもちたいと思いました。

日々の慌ただしい生活の中で、注意をする前に子どものなぜ、してしまったのか?を考えることは簡単ではありませんが、考え行動しなくてはならない事を忘れずに、日々子ども達と生活していきたいと思えます。

※提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、研修終了後、2週間以内です。常勤・専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。